

長野県松本市内における 地域猫の取り組み

— 行政と市民ボランティアによる
共同作業（コムキヤット）の成果 —

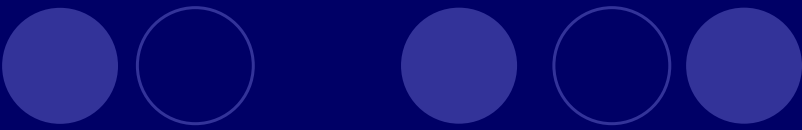
- 1) 動物愛護ボランティア「ねこの会」
- 2) 長野県動物愛護会松塩筑支部
- 3) 長野県松本保健所
- 4) 長野県動物愛護センター「ハローアニマル」

岡田英二¹⁾²⁾、山田敏子¹⁾²⁾、林一郎²⁾、北嶋麻子³⁾、
今村睦⁴⁾、金井真佐三⁴⁾

近年、ねこによる苦情が社会問題化してきているが、問題解決を猫の駆除によって図るのではなく、猫と人との共生を目指して解決する地域猫活動が知られるようになった。

松本市内のある公園では毎年、10～30頭の猫が捨てられ、常に30頭程度が生息していたが、行政とボランティアが共同して地域猫活動を行い、4年間で6分の1にまで頭数を減らした。

この活動の内容、過程、変遷についてをここでは報告する。



地域ねこの定義

- ◆ 野良猫によって起こる様々な問題を、地域の問題として位置づけ、認識し、地域ぐるみで理解して、人と猫が共生していくこと
→地域ねこ活動
- ◆ 住民とうまく共生できている猫たちを「地域ねこ」と云う

野良猫によって起こる問題を地域で解決し、人と猫が共生していくこと

長野県の地域猫開始以前の状況

◆一般市民

猫好き 給餌はすれど責任は取らず

猫嫌い 行政へ苦情、人任せ

◆動物愛護団体

保護者・会員同士で押し付け合い

◆市町村

「餌をやらないで」→遺棄責任を曖昧に

苦情主を中心とした対応

ねこ好きの言い分...腹をすかせてかわいそうだ！

餌はやるけど、おらのねこじゃない！

ねこ嫌い...行政へ苦情の一辺倒、困っていても他人任せ！

捨て猫保護だけで、てんてこ舞い。会員同士で保護の押し付け合い。

餌をあげないで→行政の不作為、餌をあげなくてもねこは増える。

やりたい人は隠れてでも餌をやる。→誰がどう管理してるか分からない。

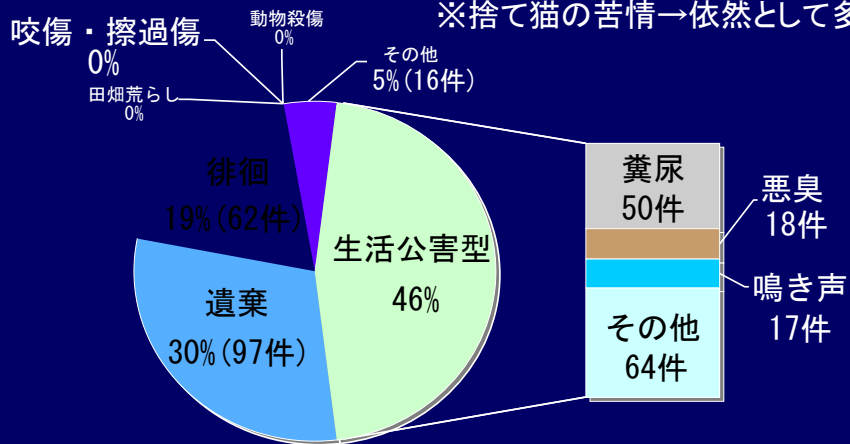
苦情主は被害者、苦情主の言い分しか取り上げず、正確な情報はない。餌をやっている人は加害者。

本当は捨てた人が加害者。苦情主も餌やりの人も被害者。

地域ねこ事業が始まるまでの苦情状況

※生活公害型苦情→主に糞尿被害

※捨て猫の苦情→依然として多い



平成13年度猫の苦情件数(総件数324件)

苦情...松本管内で年間324件に

46%が生活公害型(糞尿・悪臭で半数近く)、30%が捨て猫
ねこは人を襲わない!...ねこによる怪我の報告はない

「ねこの会」について

- ◆H13.4 長野県にあるいくつかの猫のグループが、
お互いに協力できることを補完するた
めに結成



会員数 300名

- ・タマの友達
- ・捨て猫救護班
 - 東部地域
 - 中央地域
 - 西部地域
- ・動物たちの幸せを結ぶ会
- ・etc

小規模な団体では対応が大変！

結局は、問題を抱え込むだけ！

猫のボランティアではお互いに捨て猫や野良猫問題で
活動に行き詰まりを感じていた

松本、諏訪、須坂、塩尻、茅野、飯田

中信地区での取り組み

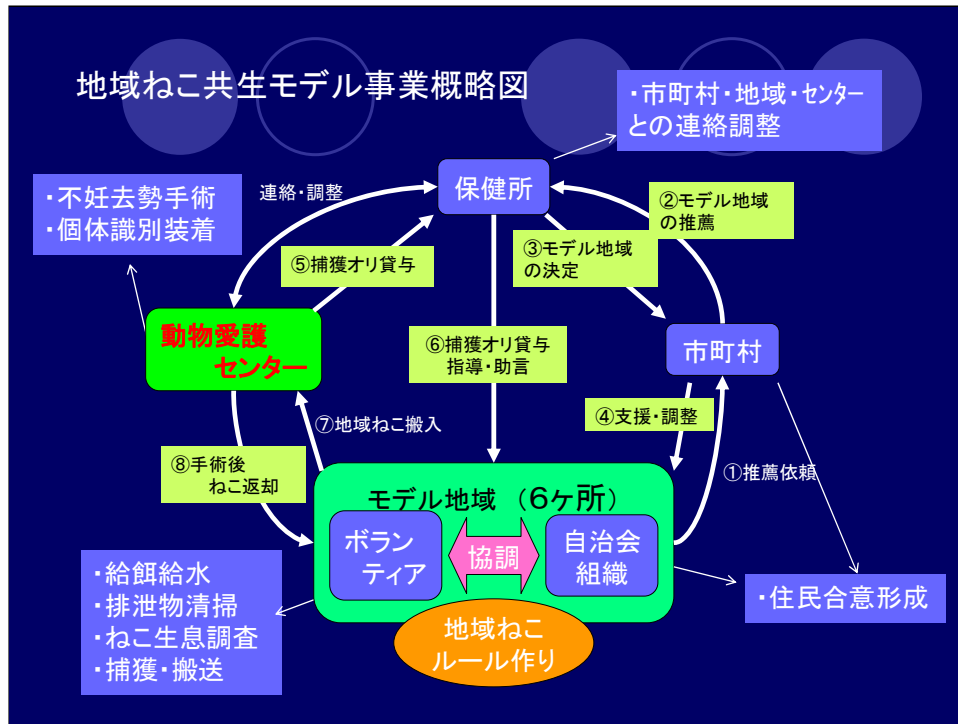
- ◆H14.4 長野県の行政に地域ねこの活動を効率よく生かすため、**長野県動物愛護会**松塩筑支部に**”ねこ部会”**が成立
「ねこの会」を中心にメンバー構成
- ◆H14.4 地域ねこ共生モデル事業の開始
- ◆H15.4 地域ねこ活動普及支援事業
- ◆H16.4 地域ねこ活動推進支援事業
- ◆H17.4 地域ねこ活動支援事業(コモンズ支援)

動物愛護会＝犬のしつけ方を中心に県と共に愛護活動を行ってきた団体

当初、知事選と重なり、予定の半分しか完了できずに、その年1年きりで完了となった。

5年継続の予定だったが、3年となり、始まったらその年に完了ということで大変に憤慨した。

しかし、関係諸氏のおかげで次年度以降も継続ができるようになった



複雑なため、関係諸機関はあまり機能していない。
市町村はあまり役に立っていない。

一番重要なところ＝繁殖制限・飼養管理

◆ねこ部会・ボランティア

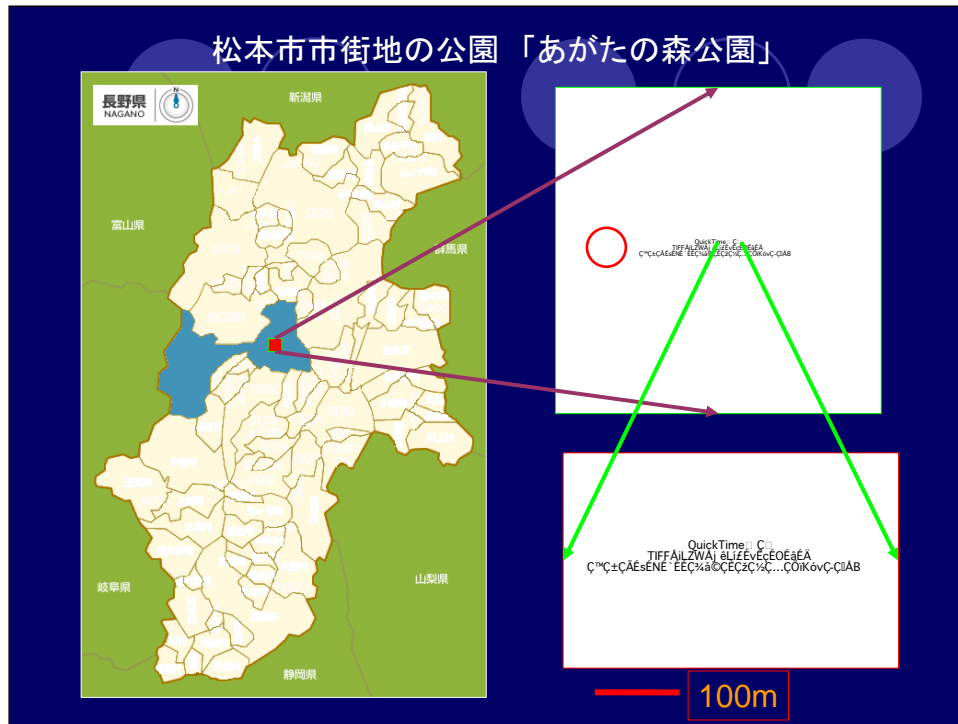
→地域選定、実態調査、猫の捕獲・運搬、
地域猫管理

◆動物愛護センター

→術前検査、避妊去勢手術、耳ピアス装着



繁殖制限と飼養管理が重要



今回、報告する場所は6カ所のうちの1つ「あがたの森公園」
 松本市の中心(合併前)
 松本駅の東1.8キロ
 東西300m × 南北200m

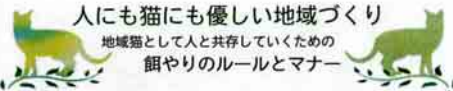


左上...ピアスを付けたねこ

右上...餌台の給餌皿から食べてる様子

左下...給餌台とねこ

右下...餌やりの風景



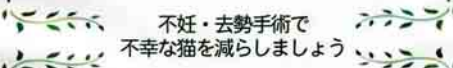
人にも猫にも優しい地域づくり

地域猫として人と共存していくための
餌やりのルールとマナー

おなかを空かせた猫に餌をやるとするのは、人の優しい気持ちの現れです。しかし、猫の好きな人ばかりではないので、嫌われて追い立てられ、虐待されて悲惨な運命をたどる猫も多いです。

野良猫も地域の中で安心して生息できるようにするために、餌やりのルールとマナーを守り、地域の方に受け入れられように気を配りましょう。

- ・餌を与える時間・場所を考慮しましょう(私有地は許可を取りましょう)
- ・餌は食べきれだけの量を与えましょう
- ・餌のトレーの設置場所がない場合は毎回片付けましょう
- ・餌を与える場所の周囲はいつも清潔に心がけましょう
- ・猫用トイレを作り(土を掘り起こし軟らかくしておく)、糞は片付けましょう
- ・他に餌を与えている人がいる時は、共通のルールとマナーで世話をしましょう



不妊・去勢手術で 不幸な猫を減らしましょう

飼い主のいない野良猫は人間の手助けで避妊・去勢しなければ、繰り返して繁殖し減ることなく、産まれてきた仔猫も決して幸せではありません。

猫に罪はなく、野良猫のもとを正せば人間が身勝手な捨てた飼い猫とその子孫なのです。また、外の暮らしは大変に難しく、せいぜい2〜3年しか生きられないのです。避妊・去勢した後に、地域猫として遊園住民に受け入れられ、温かく見守られて共存していただけたら、人にとっても猫にとっても住み心地の良い地域になるでしょう。ただ、可哀想だからと餌を与えているだけでは解決にはなりません。

動物に優しくなければ人間にも優しくできません。
人と猫が共存できる地域作りにご協力ください。

動物愛護ボランティア 【ねこの会】

連絡先： 事務局 ☎ 0263-36-2192 (FAX兼用)
090-2241-1860 (カケイ)

猫ルールちらし

餌やりのためのルール

インターネットにご自由にアレンジしてお使いくださいとあったデザイン

ねこだすけ？

避妊・去勢手術実施済みの地域ねこ



ねこの耳に付けた識別のためのピアス



病気やけがの地域ねこ

左...交通事故で左後脚に怪我を負ったねこ
右...エイズねこ

地域猫飼育管理カード

【地域猫】飼育管理カード

平成25年 2月 29日作成

モデル猫名 花の林 担当氏名 山田 昭彦 管理番号 28

個体識別シール

I 模様

II 毛の色

- 黒
- 白
- 茶
- グレー
- ラズベリー

III 毛の長さ 長 () 短 ()

愛称 / シェア人	性別 ♂ / ♀	譲渡された時期 (推定)	15才 / 4月頃	譲渡年齢	→ 歳 / 月
天竺 / 山手前の状況	① 15才頃 / 15才頃	検査結果 (譲渡前)	② 15才頃 / 15才頃	③ 譲渡後 / 譲渡後	④ 譲渡後 / 譲渡後
予防接種の状況	⑤ 15才頃 / 15才頃	⑥ 15才頃 / 15才頃	⑦ 15才頃 / 15才頃	⑧ 15才頃 / 15才頃	⑨ 15才頃 / 15才頃
譲渡について	⑩ 15才頃 / 15才頃	⑪ 15才頃 / 15才頃	⑫ 15才頃 / 15才頃	⑬ 15才頃 / 15才頃	⑭ 15才頃 / 15才頃

健康診断結果 No. 15055

項目	結果	獣医のコメント
WBG (体重)	1.5kg	正常
HGB (ヘモグロビン)	12.5g/dl	正常
BUN (尿素窒素)	10.0mg/dl	正常
CREA (クレアチニン)	0.8mg/dl	正常
PLT (血小板数)	150,000	正常

① 担当者が医師、長野県動物愛護センター 40-7-200 へ持ち込みができる
(所在地: 小諸市大字平字新田 275 番 0267-24-5071)

② 譲渡当日に担当者が保健所へ持ち込み、10-7-8 への譲渡依頼ができる

③ 上記のいずれも可能である

④ 上記のいずれも困難である

長野県動物愛護センター ねこ部

管理のためのカルテと健康診断検査結果

地域猫飼育管理カード

FUJIFILM
Lab Imaging Information
カルテNo. 17008

検査表 平成 17 年 5 月 19 日

お名前 **ホフ ちやん** 犬・猫・() 9 C・S / オ ヶ月

検査項目	基準正常値			検査結果	考えられる主な疾患	
	犬	猫	牛		増加	減少
GLU	50~124	58~136	54~116	15.4	mg/dl	糖尿病 腎性糖尿病 低血糖症 低血糖症
BUN	4.8~31.4	13.1~29.3	4~21	7.4	mg/dl	脱水 腎障害 心不全 腎臓病 腎臓病
CRE	0.2~1.6	0.9~2.1	0.1~0.8	1.7	mg/dl	腎臓病 腎臓病 腎臓病 腎臓病
TP	~151	~132			mg/dl	腎臓病
TCHO	70~203	53~164	60~290	13.6	mg/dl	高脂血症 肝疾患 高脂血症 肝疾患
TRIG	20~155	18~89	13~84		mg/dl	高脂血症 肝疾患 高脂血症 肝疾患
TBIL	0.3~0.9	0.1~0.5	0.2~1.0	0.3	mg/dl	肝臓病 黄疸 肝臓病 黄疸
Ca	7.8~12.2	8.2~11.9	6.6~10.3	10.5	mg/dl	腎臓病 骨代謝 腎臓病 骨代謝
Ca-COR	1.6~6.3	1.7~7.2		4.9	mg/dl	腎臓病
TP	5.0~7.1	5.4~7.8	5.0~7.8	6.5	g/dl	脱水 腎臓病 脱水 腎臓病
ALB	2.8~3.9	2.1~3.3	2.9~4.0	2.9	g/dl	脱水 腎臓病 脱水 腎臓病
GOT			5~40		U/l	
GPT	8~69	8~33	32~105	18	U/l	肝臓病 肝炎 肝臓病 肝炎
AST	13~53	11~50	3~40	41	U/l	肝臓病 肝炎 肝臓病 肝炎
ALT	10~199	18~295	20~320	41	U/l	肝臓病 肝炎 肝臓病 肝炎
CPK	15~277	~234	520~		U/l	心臓病 筋炎 心臓病 筋炎
LDH	~142	~67	50~730	253	U/l	心臓病 筋炎 心臓病 筋炎
AMYL	500~2185	500~3140	600~1860		U/l	膵臓病 膵炎 膵臓病 膵炎
Na	137~150	147~156	137~145		mEq/l	脱水 腎臓病 脱水 腎臓病
K	3.4~5.2	3.5~5.1	3.3~4.9		mEq/l	脱水 腎臓病 脱水 腎臓病
Ca	102~117	117~123	94~103		mEq/l	脱水 腎臓病 脱水 腎臓病
Cl	1.8~2.4	2.2			mg/dl	脱水 腎臓病 脱水 腎臓病

【所見】

No. 17008 (底猫)
85-5-19 10:29

検査項目

START-F*1000000*F02

QU-PS = 19 10450
NO.17008
GLU-PS = 154 W/E1

BUN-PS = 67.4 W/E1
CRE-PS = 1.7 W/E1
TCHO-PS = 136 W/E1
TBIL-PS = 0.1 W/E1
Ca-PS = 10.5 W/E1
IP-PS = 4.9 W/E1
TP-PS = 6.5 W/E1
ALB-PS = 2.8 W/E1
GOT-PS = 18 U/l
GPT-PS = 46 U/l
CPK-PS = 467 U/l
LDH-PS = 253 U/l

疑われる疾患
脱水 腎臓病
高脂血症

2枚目→、より検査結果が充実。一般の飼い猫よりも健康管理は万全

「地域ねこ共生モデル事業」実績報告書
あがたの森公園

(平成18年2月作成)

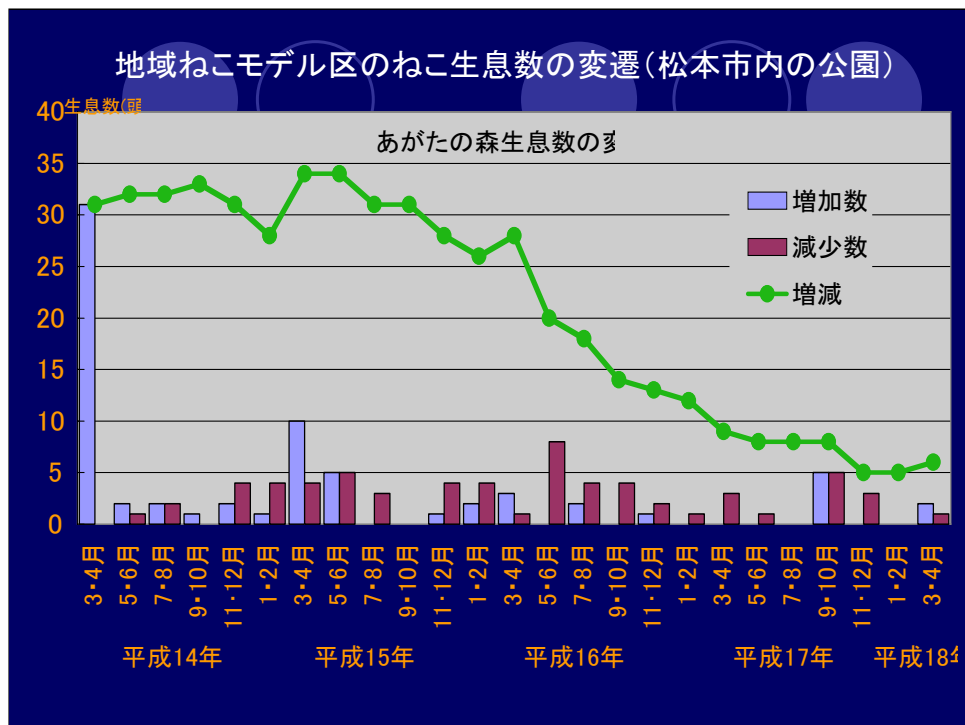
選定地域内での 確認頭数			事故・病死・ 譲渡等による 減少数			地域内の 生息頭数			繁殖制限 手術の 実施頭数		未処理頭数			
(平成14年4月 ～18年2月)			(平成14年4月 ～18年2月)			(平成18年2月現在)								
♂	♀	♂♀ ?	♂	♀	♂♀ ?	♂	♀	♂♀ ?	♂	♀	♂	♀	♂♀ ?	
35	31	2	33	28	2	2	3	-	32	27	1	-	-	
計	68		計	63		計	5		計	59		計	1	

事業当初から生息している猫はわずか1頭♂黒猫

あがたの森公園...確認頭数累計61頭、減少頭数63頭 生息数5頭(18年2月時点)→地域ねこ事業当初から生息するねこはわずか1頭

どの地域も確認頭数よりも生息頭数が少ないので確実に減っている。しかし、中央公園(松本城)は教育委員会の許可が下りないために十分な対策がとれず、手術頭数に見合った効果が出ていない。

- ・定時定点給餌ができない→捕獲が困難→手術が遅れ、子猫が増える。
- ・餌代が設置できないために景観が悪く公園利用者の心象が良くない
- ・利己的な住民が数人いるだけで効率が悪くなる。



当初、猫の数は31頭だった。初年度

- ・県が行う手術がなかなか進まず、ボランティアの負担が大きかった。

- ・予定数の半分しか手術ができなかった。

- ・次年度において十分な手術ができなかったため、春の繁殖期に子猫が生まれ全体数が増加した。

- ・手術が順調に進み自然増加が減った。

- ・2ヶ月毎に5頭以下ではあるが一定数、着実に減っていく。

- ・減少数の高い項目は行方不明、交通事故、病死であった。

- ・行方不明で処理後、判明した減少原因は、交通事故死が多く、ついで連れて帰る等であった。

- ・平成16年以降、地域ねこの温厚さや人への懐き良さなどで、譲渡希望が増えた。

- ・若干の捨て猫があるが、以前のような大量の子猫遺棄は減った。(警察導入、住民警ら、意識の高まり等)

- ・当初の予定通り、3年で大幅に猫数が減少し、5頭までに減った。

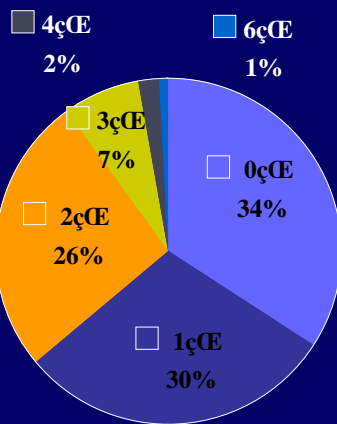
- ・つい最近、2頭目知らぬ猫が生自、雌1頭が交通事故死

地域猫の年齢分布

・3歳までの猫で90%以上を占める
→生まれてから3年程しか生きられない



・自然増加が3年間なければ総数減少



地域ねこ年齢分布

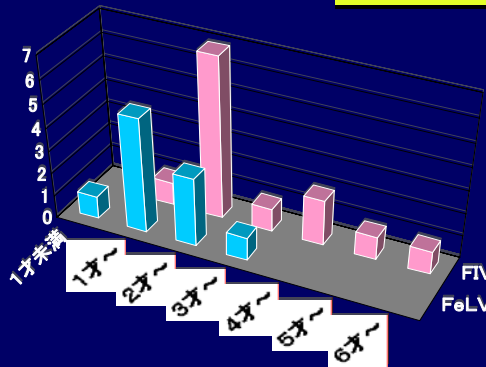


捨て猫は圧倒的に生後3ヶ月目までに捨てられるものが多い
0、1、2歳(3歳まで)のねこで90%を占める→およそ3年間しか
生きられない。

高齢になってから捨てられる猫は病気等に成っている。

地域猫のウイルス罹病状況

項目	検体数	陽性数	陽性率%
FeLV	155	10	6.5
FIV	155	13	8.4



◆飼い主のいない猫は、どんな病気を持っているか分からないというイメージがある。

↓
◆実際の調査：
猫エイズやウイルス性白血病は1割に満たない

表上...グラフ青...伝染性白血病

表下...グラフピンク...ねこエイズ

白血病は母子感染が大きい

エイズはねこ同士の喧嘩等で感染

病気の感染率は普通のねこと変わらない。

年を追う毎に通算の感染率は低くなっている。

●飼い主のいない猫は、どんな病気を持っているか分からないというイメージがある。

↓

◇実際の調査：猫エイズやウイルス性白血病は1割に満たない

地域猫化による効果

◆猫の数が2～3年で大きく減少する

◆猫への苦情が減少する

◆猫の性格が温厚になる

◆毎日**定時定点給餌**するボランティアを母と慕い

(親子関係)

◆共同生活のコロニーをつくり仲良く暮らす

(兄弟関係)

◆飼い猫として譲渡される

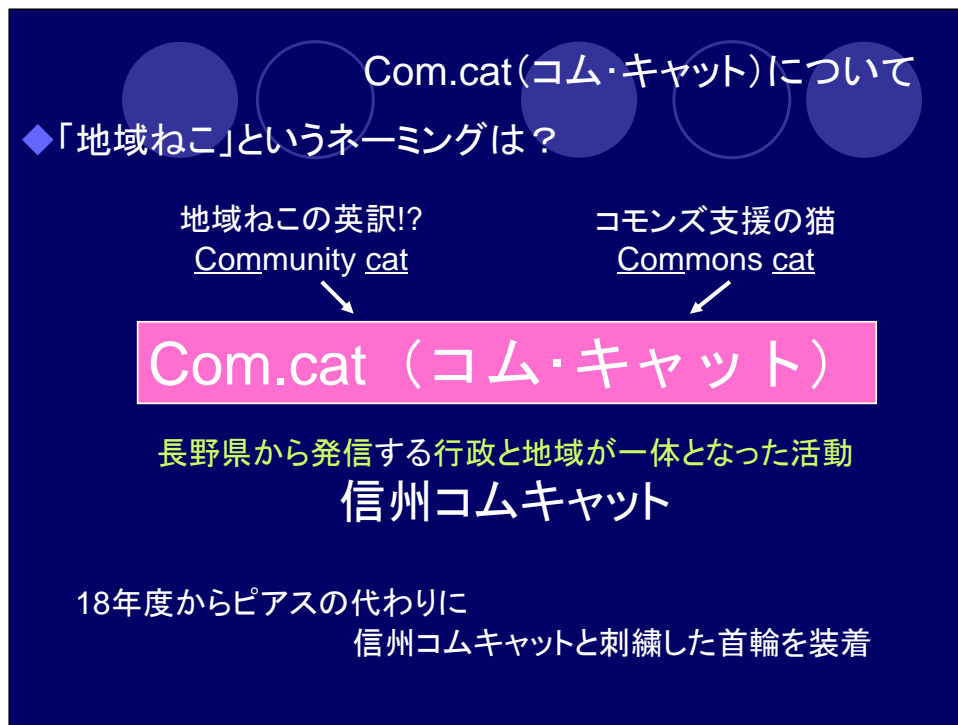
モデル地域における継続希望と新規地域からの強い活動要請がある



効果

- ・避妊去勢手術よって自然増加が起きないと2～3年で大幅にねこ数は減少する。
- ・管理されていると安心感があり、問題発生時も責任の所在が分かるので、軽度なことでは苦情が起きなくなる。
- ・避妊去勢手術により、ホルモンによる行動支配が無くなるので、きわめて温厚で人に懐くようになる(幼猫のままの性格)
- ・定時定点給餌することにより、ねこがはっきりと餌をやる人を認識し、親と見なす。
- ・十分な餌があるので、テリトリー争いが減り、共同生活する→手術による子猫効果も大きい
- ・よく懐くねこは地域で育てなくても飼いたいという希望者が出てきて自宅で飼ってくれる→ねこ数の大幅な減少

- ・現在行っている地域では継続希望がで、行っていない地域も噂を聞きつけ、強い活動要請が起きる



コムキャット

全国的に見ても、ボランティアが行政(県)と具体的に連絡を取りながら連携している地域ねこ活動は長野県しかない。

大きな理由は、動物愛護センターの存在で、施設面の充実さとスタッフの働きが大きい要素である。

- ・地域ねここと聞いただけでは、一般に意味がよく分からない。
- ・どうせ意味不明ならば、最初から新しい名前を付けて、長野県から発信する新しい地域ねこ、コムキャットとし、ボランティアと行政のあり方を強調した方がキャンペーン的にもうまくいく。

今後の課題

- ◆ 遺棄が犯罪であることの啓発
- ◆ 問題地域での早急な許認可の付与
- ◆ 捨て猫や出産の多い年度改変期(3、4月)の対応
- ◆ 施設ねこ
- ◆ 餌やり行動の顕在化
- ◆ 猫飼育者の登録制導入
- ◆ 独居老人家庭の猫対策

- ・捨て猫が犯罪であることを周知徹底させる
- ・活動自体を行政が素早く認めることが、ボランティアの活動にお墨付きを与えることになるので、無駄なトラブルは減る。解決の早道
- ・ねこの繁殖データから、3、4月の時期に手術ができる体制を確保することが重要。ボランティアの手術費負担ではせいぜい1、2頭止まり。
- ・施設ねこ...新たなコムキヤット形態として、公共施設や老人ホーム等(飼育にメリットがある施設)が主に管理し、センターが手術と定期検診等に努める
- ・隠れた餌やりは、やっている人が挙動不審に見えるため、ねこも警戒し、いつまでたっても懐きにくい。また、管理状況が把握できず、地域住民に不安感を感じさせ、感情を悪化させる。
- ・ねこも登録制にして、個人責任の明確化とねこの身元を明らかにし、登録料を原資として地域ねこ活動等の運営や管理の経費に充てる。登録していないねこは所有者無しなので、捕獲・手術・返還がスムーズに行く。
- ・寂しさから野良猫を餌付けして増やし、環境公害を起こし、そのため、地域から疎外されますます、孤立化し、ねこを増やす悪循環に陥る。ねこ問題の大半が老人問題と絡んでおり、安易な捨て猫問題も老人が増えたら捨てるという、行為が多くなっている。

基本的にねこ問題は「ねこが起こす問題」ではなく、ねこを介して人と人が起こす問題である。地域におけるコミュニケーションが進んでいれば、大きな問題にならない。